

事後評価報告書
(日本-台湾研究交流)

1. 研究課題名:

「偽造困難なデバイスを用いた IoT セキュリティ管理システム」

2. 研究代表者名:

日本側: 産業技術総合研究所 情報技術研究部門 研究部門長 田中 良夫

相手側: 財団法人国家実験研究院 高速網路與計算中心 リサーチフェロー 黄 維誠

3. 総合評価: B

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

デバイス側に強い日本とネットワーク側に強い台湾が連携して統一的な観点から IoT セキュリティを構築した結果として、本事業による論文・成果が複数の国際会議等で発表されたことは評価できる。また本事業の基盤技術となったパスワード認証方式 AugPAKE が ISO/IEC 11770-2:2017 に採択されたこと等は、国際交流の成果といえる。研究成果が国際標準化に反映されたという現時点での効果に加え、企業も巻き込んだ発展を進めていることは高く評価できる。

ただし、目標とした「乗っ取りリスク、偽造・模倣リスク低減」がどの程度達成されるかの評価方法・評価結果が示されていないため、成果技術の見通しに対する説得力が不足している印象を受けた。また、当初提示された台湾側チームの得意とするビッグデータ解析やマルウェア及び攻撃検知技術とを有機的に組み合わせるといったアプローチが十分に生かされていないように見え、相乗効果の点でやや疑問が残った。

(2)交流成果の評価について

平成 29 年に台湾 MOST と産業技術総合研究所の協力覚書に基づく活動の一環で行われた研究公募に、本事業の台湾側研究代表者が採択されており、本事業の研究で得られた知見を活かして双方の人工知能用高性能計算機を連携させた分散環境上でのセキュアなプラットフォームの構築が期待される。

本事業での研究交流の成果は認められるものの、将来の交流につながる人材育成の観点では、若手研究者の育成についても十分な記載があった方が良かった。

(3)その他

特になし